

沖縄「国外」伝道に関する総括（1998年）

序言

日本バプテスト連盟は1955年に宣教師を派遣して、国外伝道として沖縄伝道を開始し、1967年に終了した。沖縄伝道について、特に沖縄を「国外」と位置付けたことに関して1991年第3回理事会は、「沖縄県伝道を国外伝道と位置付けた日本バプテスト連盟の現時点における総括」（以下「91年総括」と言う）を採択し、その反省と総括を表明した。

しかし、その後「少女暴行事件」をきっかけとして、日本バプテスト連盟諸教会においても基地問題等沖縄の問題に対する取り組みが起こった。この流れの中、先の総括はまだ不徹底であり、再度総括されねばならないことが、1996年の第46回定期総会において決定され、沖縄「国外」伝道問題総括委員会が設置された（注1）。

第一 「91年総括」について

わたしたちは、「91年総括」を以下のような点において、積極的に評価し、わたしたちの姿勢も基本的にこの上に立つものであることを言明する。

- ①わたしたちは、沖縄伝道を「国外伝道」としたことを反省し、総括したという事実を評価する。
- ②「91年総括」には、沖縄に負わせられた問題を理解しようとする意図が認められる。
- ③「91年総括」は、「ヤスクニ宣言」から始まる戦責告白を背景にするのみならず、それを内実化させるものであった。
しかしながら、わたしたちは、「91年総括」においてなお不十分な点があったことをも認め、それを以下のように指摘する。
- ④「91年総括」は、日本バプテスト連盟の沖縄伝道が「連盟対連盟」を原則とする宣教論の次元においてどうであったかについて評価、言及していない。
- ⑤沖縄派遣宣教師の働きについて、沖縄バプテスト連盟においては高い評価と同様に批判もあったことについては何も言及していない。
- ⑥「91年総括」において、特に不十分である点は「沖縄におけるバプテストの伝道と協力に関する沖縄バプテスト連盟理事会の意向」（1967年1月13日）（以下「67年意向」と言う）については何ら触れられていないことである（注2）。「67年意向」は、当時沖縄バプテスト連盟が、宣教師を派遣した日本バプテスト連盟に批判的な問いを投げかけたものである。宣教師にかかわる問題は、単に個人的問題ではなく、そのような派遣をした日本バプテスト連盟の問題であったはずである。
- ⑦また、「91年総括」作業自体が、沖縄バプテスト連盟との対話のもとになされなかったことは残念である。これゆえに「91年総括」は、沖縄バプテスト連盟との直接的で持続的な対話を拓くきっかけにはなり得なかった。

（注1）委員：寺園喜基（長） 藤田英彦 奥村敏夫 森松長生 奥田知志

（注2）沖縄におけるバプテストの伝道と協力に関する沖縄バプテスト連盟理事会の意向

- 1 日本バプテスト連盟の沖縄における宣教活動は沖縄バプテスト連盟との関係において頂くこと。
- 2 日本バプテスト連盟派遣の宣教師は沖縄バプテスト連盟の宣教師として第一項の主旨に賛同する牧師を派遣して頂くこと。
- 3 沖縄の政治状況からみて祖国復帰を望みつつも、組織上の即時一体化は困難であるので、現状のままでも協力のできる新しい関係を続けて頂くこと。

一九六七年一月十三日 沖縄バプテスト連盟 理事長 国吉守 外理事一同

第二 日本バプテスト連盟による沖縄伝道についてのわたしたちの総括

わたしたちは、「91年総括」を踏まえつつ、日本バプテスト連盟の沖縄「国外」伝道について次のように総括する。

- ①派遣宣教師の伝道に対する熱情、連盟や婦人連合の熱心な祈りとサポート等、どれも高く評価されなければならない。
- ②教会は、その福音宣教にあたって、国家、政治的な次元を越えた神の国の展望において宣教政策をたてるべきである。福音宣教は、戦責告白の内実化を目指しつつ、自らの信仰の問い直しと呼応しつつ、神の御言葉に拠り、世界の状況を踏まえて行なわれるものでなくてはならない。しかし、当時の日本バプテスト連盟は、御言葉に聞きつつ主体的な判断を持つ事なく、国家の沖縄切り離し政策を無批判に受け入れ、安易に沖縄を「国外」としてしまった。さらにこのことが、日本バプテスト連盟の沖縄伝道が基地問題をはじめとする沖縄の諸問題を宣教の課題とすることができなかつたことの要因である。
- ③派遣宣教師の働きに関して、「連盟対連盟」としての対応と協議がなされなかつたことを反省して、宣教師個人の事柄ではない宣教政策と実行が確立されるべきである。
- ④「91年総括」の後、日本バプテスト連盟として「91年総括」に基づいた具体化が無かつたことは、深く反省すべきである。実際的には1967年の沖縄伝道の終了以後、上記の総括の視点に立った「連盟対連盟」の協力関係は具体化することはできなかつた。

第三 今後の歩み

わたしたちは、以上のような総括に立ち、今後の沖縄バプテスト連盟との具体的で新しい宣教協力関係を築き多岐にわたるものとするために、日本バプテスト連盟の沖縄における宣教を提案するものである。

- ①今後の新たな沖縄バプテスト連盟との宣教協力関係を築くため、わたしたちは、改めて沖縄を「国外」と位置付けたことを神の前に悔い改める。ここにおける「国外」規定の問題性は、隣人性の欠如としての問題である。沖縄を国外と位置づけた私たちの歴史理解の欠如が沖縄の人々に大きな悲しみを与えたことに対して、心から謝罪する。
- ②わたしたちは、イエス・キリストの宣教命令に従い、沖縄バプテスト連盟と協力しつつ、福音宣教を行う。
- ③「67年意向」は、その成立状況から言って必然的なものであったと理解する。わたしたちは、沖縄バプテスト連盟理事会に対してこの文書の歴史的使命は果たせたのではないか、またこれをより一層積極的なものに改められないか、と呼びかけ、対話の時をもった。この対話をきっかけとし、1998年8月、沖縄バプテスト連盟理事会より、「67年意向」は「調正路牧師の『国外』宣教師としての終了にともないその効力を失った」（8月3日付）と確認をした旨の連絡をいただいた。

わたしたちは、両連盟が共同して新しい協力関係を築くために協議の場が必要であることを確認する。又、そこにおいて今後の新しい協力関係を表明する作業をはじめたい。

- ④沖縄における課題を共有しうる福音宣教の広がりを目指すため、固有の歴史と文化を尊重しつつ、日本バプテスト連盟が連盟として沖縄に開拓伝道などの宣教プロジェクトを始める。その場合は、沖縄バプテスト連盟の理解を得ながら行う。
- ⑤新しい沖縄伝道に当たっては、その歴史的、状況的重要性に基づき、それを準備し、また推進するための具体的な取り組みを開始する。

1998年11月11日

日本バプテスト連盟第47回定期総会